

平成 21 年度

事業所名 : グループホーム たろう

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200129		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホームたろう		
所在地	〒027-0301 岩手県宮古市田老字館が森52		
自己評価作成日	平成 21 年 9 月 14 日	評価結果市町村受理日	平成21年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390200129&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390200129&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成21年9月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○地域住民の皆様と関わり合いをしながら入居者様の笑顔作りをしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民との共生を意識して取り組むとともに、毎日を楽しく充実して暮せるように、みんなで歌う詩を月ごとに変えて季節感を取り入れたり、年齢にあわせて曲目を変えたりして職員も一緒に歌っている。さらに、習字の好きな利用者には、コンテストに出展させて特選を受賞したり、ホームの理念を筆耕してもらったりと工夫しながら活躍の場をつくり支援しており、利用者の表情も豊かである。また宮古市田老町は、過去に何回か大津波に襲われた経験から、災害時における住民同士の助け合いの意識はかなり高く、行事を開催すれば近所の人たちが参加し協力してくれ、ホームの運営でも大きな力となっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム たろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○理念方針を入居者様から書いて頂いて、誰の目にも入る玄関に掲げている。 ○カンファレンス時唱和したり、時折入居者と唱和して共有している。	ホーム独自の理念を一昨年職員で協議して作り上げており、管理者と職員は利用者が安心して地域で暮せることを意識して、具体的なケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○老人クラブ、自治会の入会、中学校3校、高校生の体験学習を受け入れて交流を図っている。○地域行事の参加	日常的には散歩や買い物などで挨拶を交わしたり、自治会の行事である草取りやお祭りなどの行事に参加したり、中学生や高校生の体験学習を受け入れたりして積極的に地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の商店への買物、散歩時に立ち話などをしながらごく自然な流れの中で理解して頂く様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月ごと1回開催し、入居者の状況、活動状況内容等を報告し、意見やアドバイスを頂いているが、とても和やかな家庭的の雰囲気、参加された方の情報交換の場となる事もある、	2ヶ月に一回開催し、利用者の身体状況や暮らしの状況などを報告している。また、ホーム周囲の廃材の処分や建物の換気扇の異常音など課題も話し合われサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	○管理者の研修会へ参加し情報や指導を頂いている。 ○その都度情報を提供して頂いている。 ○研修生の受け入れも依頼される。	介護認定の更新や生活保護の手続きなど日頃から連携をとっている。また、市が主催する管理者研修に出席したり、大学・専門学校の研修生を依頼されるなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○法人内で委員会主催の勉強会にスタッフが順番で参加している。 ○パンフレット・資料等を置いている。	法人の「リスクマネジメント委員会」が主催する研修会に全職員が参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、玄関の戸締りは利用者自らが行っており、職員はそれを確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアの中ではあってはならない事であり、職員にストレスを感じさせない様に職員の精神面や、意見には耳を傾け、早急に対応できる様にしてカンファレンス時では話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用している方はおりませんが、個々に資格取得に向けて学んでいる。成年後見制度について学習しており資料等で伝講、パンフレット設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時、本人、家族に説明し見学をして頂き納得された上で契約手続きを致します。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。苦情、不満等に対してはその都度スタッフ間で連絡を取り早急に対応出来る様にしている。	毎月発行する「お知らせ」に意見や要望を書き込む欄を設けたり、家族と利用者が出席する推進会議や面会時を活用したり、普段ホームに来れない方には電話で相談したりして聞く機会をつくり運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスを開きスタッフから意見、提案を聞く様にしている。その都度職員からの声に耳を傾け意見を聞き内容によっては、早急に対応する様にしている。	カンファレンスを毎月開催し、意見や提案を聞く機会を作っている。また、申し送りノートを活用し利用者の身体の状態や介助について随時話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○職員のチームワークが不可欠であり、常に職員が働きやすい様に勤務体制には配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○資格取得に向けての勉強会への参加を促し、法人内での研修は交代で参加し、参加出来ない職員には伝講している。 ○介護トレーナー、各委員会へ参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会への入会、法人内での交換研修、法人内でのホーム長会議、他事業所との訪問や広報の交換などで情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調時、又訪問時に本人にお会いし極自然な形で接し馴染みの関係作りをし傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○自分を理解してもらい本人、家族の困っている事、疑問な事に耳を傾け、電話等でも話す機会を多くもつ様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時、実調時、入居後の支援内容をまとめ、介護計画作成をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中では、人生の先輩である事に念を置いて常に支え合う関係である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○家族との関係作りは、お互いに信頼できる。○毎日のおたより、3ヶ月事の広報誌発行、入居者と密に連絡をして頂き疎遠にならない様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○施設を開放し、いつでも気軽に声を掛けて頂いたり、掛けたりと地域の人達と自然に馴染みの関係ができています。 ○入居者も、月1回の同級会に参加し、又手紙等の交換している。 ○本人の大切なもの、仏様も備え付けお盆、命日には供え物もし、安心して生活できる様にしています。	以前に利用していた食堂や趣味のパチンコなどに行ったり、ホームの近くに同級生のいる利用者がおり、その娘さんの協力で同級会に参加したりして生活習慣を尊重した支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も間に入って特にトラブルもなく、お互い持ちつ持たれず良い関係で生活しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者と変わらずに情報を確認している家族もある。相談が有れば、いつでも応じていく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者同士の会話の中から時折『ここに来て本当に良かった、ラッキーだった』等の声が聞かれ、又会話の中でさりげなく要望や、職員に対する不満等を聞きだそうとするも感謝のみ。どこにも行きたくないとの言葉が返ってきて、日常不安な気持ちも見られず。	散歩や買い物など日々の暮らしの中で、会話や行動を共にしながら希望や意向の把握に努めるとともに、困難な場合には家族や関係者からも聞いて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族から利用者の生活歴、職業、健康状態、性格、趣味を入居に至るまでを詳しく聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の健康チェック、状態、生活状況を把握し又、記録し申し送りノート、申し送りで情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで利用者の介護計画について話し合い、評価して見直しをしている。家族の参加が実施されない為、電話や、来所時に意見を取り入れ、本人の気持ちを反映している。ご家族は遠方の為電話等で説明し、同意している。	3ヶ月ごとに介護計画を見直すこととしており、利用者の身体状況はチェック表で確認し、暮らしの目標についてはケアプランに沿って毎月評価し、さらに家族の意向も加味しながら職員会議で検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の気付きノート、申し送り、介護記録、連絡網で、周知徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方に在住している家族が多いため、時折に帰郷された際、一緒に温泉等に行かれたり、外食されたりと家族とのひと時を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○地域の皆様にホームの催し等に民謡、踊り、食事の提供等を頂いております。 ○入居者様のエスケープ時や、災害時の支援もお願いしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○ご家族、本人の同意の上、定期的な受診及び、急変の支援をしている。○主治医を入居者は全面的に信頼しており、Drとも良い関係作りをしています。	定期的な受診は協力病院をかかりつけ医として同意を得ており、医療との良好な関係を築いている。また、診療科目がなく町外の病院に通院する場合は家族にも協力してもらうなど情報を共有しながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員の協力病院の看護職員からアドバイスを頂いたり、入居者が重度化することのない様に早目の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時の状況や、生活状況を把握し、ご家族や法人内での整理を図っているが、入居者様は住み慣れた場所での生活が望ましいと思われ連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や、終末期の対応は家族に説明しておりますが、法人内の老健施設と連携をはかっております。	マニュアルとしては作成していないが、重度化や終末期の対応については、早い段階に法人内の老人保健施設と連携をとりながら支援することを家族と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づいて対応する様に事務所内に手順を掲げており、応急手当方法は、法人内での勉強会、救命士からAEDの扱い方、心肺蘇生法を学んでいます。(年1回)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、ホーム内で避難訓練の実施、年2回、自治会主催の津波訓練、その他の訓練に入居者と参加している。	年二回実施されるホームの避難訓練や地域で実施される津波訓練にも参加し、利用者が安全に避難できるよう地域住民のグループホーム協力員による支援体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時、更衣じ、排泄時、又失禁時にさり気なく対応している。	利用者の表情や行動をよく観察して、トイレへの誘導や失禁時の処理、入浴時の着替えなど本人の誇りを損ねないように言葉かけをしている。また、できる限り同性介護を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の生活歴を大事にし、本人と一緒に昔の苦労話や思い出話を耳を傾け、今健康である事に感謝して頂いている。○会話の中で方言や、ことわざを取り入れたりと話題に笑いを取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを設定して有りますが、その時の流れに沿って気晴らしに外出したり、入居者の表情を伺いながら強制することなく、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	メリハリのある生活をして頂くために昔からの習慣等は大事にしている。外出時は装いも新たに気分転換を図って頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	健康は、食の大切さとしみじみ感じている。職員と一緒に調理し入居者全員自分に合った事を手伝って頂き行事食、昔からの慣わし事も大切に、利用者のリクエストもあり昔の食事も取り入れております。	食事は職員と一緒に役割を分担して調理をしており、伝統食や時には利用者からの希望による食事を作るなどしている。また、職員も一緒に話題を提供しながら食事が楽しいひと時となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量や、水分チェック及び健康チェックをし、状態を把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で不十分な入居者に対しては、職員と一緒に義歯のみに限らず、舌、口腔内のケアを行い、自力の人には声掛けで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在はオムツ使用者はおりませんが、体調を崩したときは一時的に使用される事もある。	利用者の表情や様子を察知しながら、毎日記録している水分量や排泄の回数などをチェックし、時間を見計らって誘導するなどして、可能な限りオムツを使用することのないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に短時間でも機能訓練に向けてのレクを行っており、水分量のチェック、食事の中に繊維物を多く摂り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気の合う同士の入浴等ゆっくり入浴できるよう配慮し、時々老人憩いの家へ出かけ大勢の人達と触れ合い楽しんでいる。(入浴時は職員とのコミュニケーションを大切にしている。)	毎日入浴できるように配慮しているが、入浴しない場合は清拭で対応し、それでも入浴しない場合は近くの温泉に出かけたり、受診があるからきれいにしましょうなどと声がけをして、楽しく入浴できるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の心地良い疲労感が有り夜間は良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方が生じた場合は、全員が把握出来る様に送りノートに目的、効能を記載し、口頭でも伝講している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴を把握しながら、個々の能力に即した役割を持っていただいて気晴らしの支援をしている。入居者の『ありがとう』の声が聞かれ、笑顔が多く見られる様にと努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	役所への手続き、個人の買物、催し物の鑑賞、家族との外食、旅行、郵便局等へ、職員家族と出かけている。	日常的には、散歩や買い物に出かけており、希望があればドライブやお祭り、食事に出かけたりしている。また、職員と一緒に広報や回覧板を廻しに出かけたりして、利用者の理解や地域の協力を得られるよう外出支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内の買物時にも財布を渡し、会計を済ませて頂いている(お店の人の協力もあり)本人は、1000円位の所持金を自分の財布に入れている。(個人預かりより)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族には月2~3回電話をしたり、こちらからかけたりし、家族の様子を聞いたり、お互いに思いやっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂く様、季節ごとの装飾に配慮し、又、入居者の写真や作品と一緒に飾っている。	民宿を改築した関係で制約はあるものの、共用スペースは広くとっており、ソファを配置してゆったりと談笑できる空間となっている。壁には季節の歌の歌詞や折り紙が張られ、花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は畳となつて時にはゆっくり寛ぐ事が出来、スペースは狭いですが、コタツ等も配置して家庭での生活を味わって頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の使い慣れた生活用品や位牌等を持ち込まれている方もおられ、本人は父さんや子供と一緒に居る気がすると話され、穏やかに生活している。	家具調度品や位牌など、利用者が大切にしていたものを持参し配置している。また、ホームでの敬老行事の贈り物である感謝状、手形、似顔絵などがきれいに飾られ思い出に囲まれた居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋を間違える入居者様は居ませんが、居室前には、居室前にはご本人の顔写真を掲げ、トイレ、風呂等も見やすい位置に表示、トイレ内には排便確認の問かけを兼ねてコメントの表示もしている。		